

# こうほう ごし 広報54



ちゃんめろが顔を出し、徐々に春めいてきました。今年は雪解けが早そうですが、季節の変わり目は体調を崩しやすいもの。身体には気をつけてくださいね。さて、3号目となる本号では、54プロジェクトの進捗状況をお伝えしていきます。

## 54ふるを推進するための取り組み

### 《平成30年度進めていくこと》

- **つなぎ合わせる民間の会社(拠点運営組織)の具体化**
  - 法人形態の決定
  - 事業内容の具体化・決定
- **複合拠点施設「いるとこ」の整備着手**
  - 機能①安心できる住まい、機能②交流促進
  - 施設内の機能についての意見交換
- **住民同士の支え合いの仕組みづくり**
  - 仕組みづくりのためのトライアル(実証実験)
  - 担い手発掘のためのワークショップ開催

など

### 《平成29年度進めていること》

拠点運営組織や緊急度の高い生活支援サービスの具体化を考えています。

村内で暮らし続けるための住まいの整備

トレーラーハウスを活用した実証実験を実施。見守り付き住宅の運営・活用方法を検証しています。

高齢者の移動手段確保

交通体験会・勉強会で話し合いを行い、公共交通の利用方法や、必要となる新たな移送サービスを検討しています。

ICTを使った生活支援情報連携の実証実験

・よろず相談システム  
・情報共有ノート  
・健康管理システム  
この3つのアプリケーションを村内外にて実証実験中です。

村外への買い物ツアー

マイクロバスで行く糸魚川へのツアーを3回実施。平成30年度に向けて、住民ニーズにあった内容を検討しています。

# 小谷村の現状と

## 54ふるの目指すところ

現在、小谷村では高齢化と人口減少が進んでおり、30年後には人口半減という予測推計が現実味を帯びてきています。右記のグラフは、「小谷村の直近5年間の人口増減数とH29.4月現在の高齢化率」を示したものです。赤色が減ったところ、緑色が増えたところ、黄色が変化がないところです。皆さんの住んでいる集落の状況はどうでしょうか？

差はあれど、どこの集落もなかなか厳しい将来が想像されますね。

このような状況を見て、54ふるでは「54集落ごと、すべての世代の誰もが自分らしく暮らせる村を実現する」を目標に、人口減少幅を減らすとともに、村の暮らしの質を高め、老いも若きも子どもたちもが、希望を持てる集落をつくっていくことを目指しています。

たとえば、今から5年後に自分たちの暮らす集落がどのような状況になっているのか？  
そこで暮らしていくことはできるのか？そのためには何をすればいいのか？

これは小谷村に住む村民誰もが考えることであり、自分の住む集落のことを自分たちで考える「自分ごと」として受け止めてほしいと思っています。そういう意味では、おたり54プロジェクトは「村民全員参加のプロジェクト」でもあるのです。

では、良い村・希望が持てる将来とは、どうすれば実現するのでしょうか？

54ふるでは①居場所(いるところ)と②出番(やること)が村の中にあることが重要だと考えています。

「いるところ」とは住まいはもちろん、仕事と家庭以外の交流の場であり、多世代が共存し、安心していきいきと生活・交流できる場所。「やること」とは、働く機会・活躍できる機会のことであり、働いてお金を稼ぐことはもちろん、野菜を作って売ること、近所の除雪を手伝うこと、隣の家への声かけなども含まれます。

この機会を生み出すためには、54ふるを持続的に牽引する「つなぎ合わせる民間の会社」の設立が必要です。平成30年度は、この2つを実現するために右記のような具体的な取り組みを考えています。

### 平成30年度の予定

#### ①いるところ＝複合拠点施設の整備

- 施設の具体案の検討
- 建設場所の決定
- 運営計画の検討
- 完成までのスケジュール決定

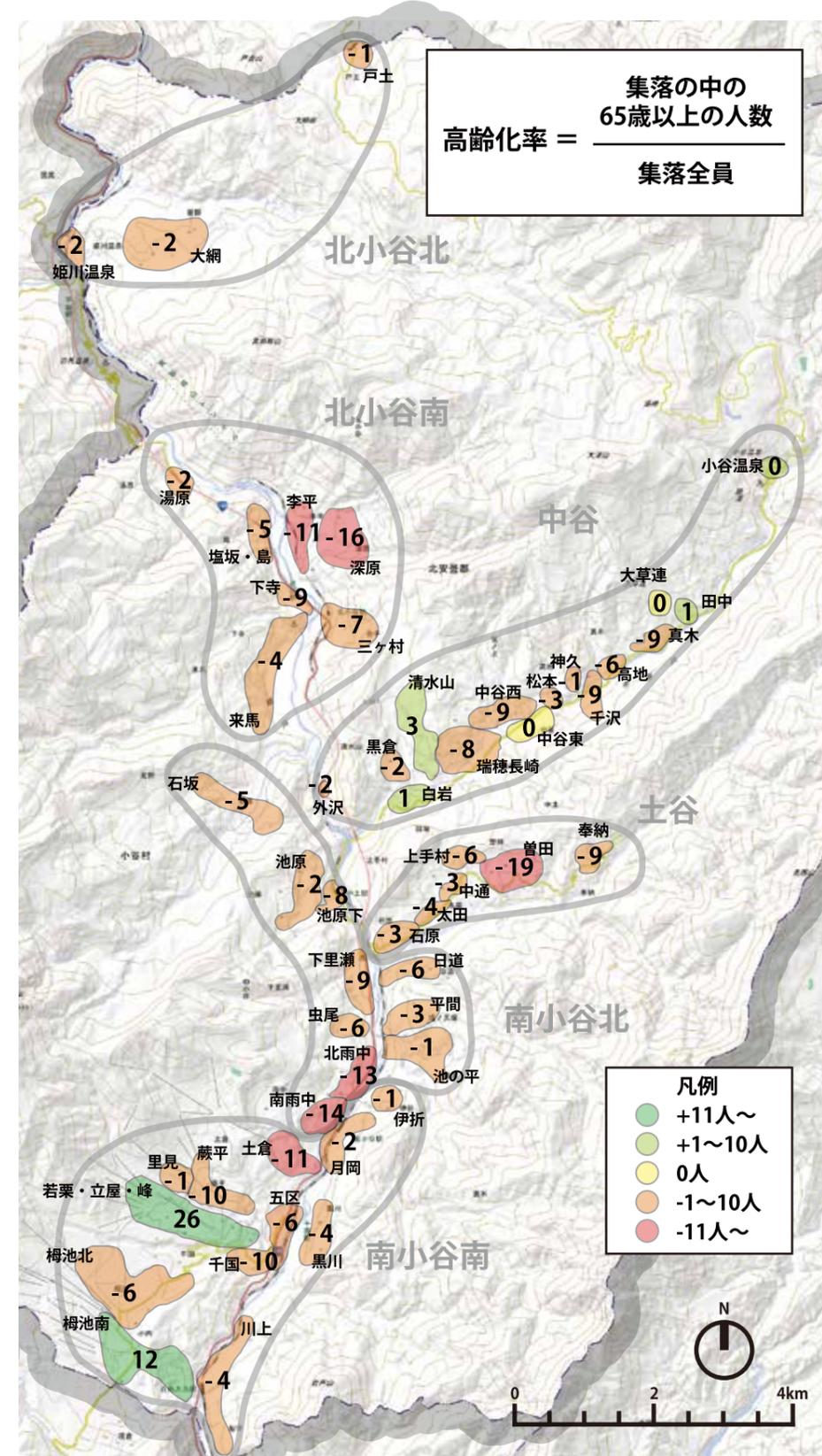
#### ②やること＝つなぎ合わせる民間の会社設立

- 法人格の決定
- 組織体制の検討
- 事業計画の検討
- 運営計画の検討

### 小谷村：平成24～29年にかけての人口増減と高齢化率

- 小谷全域では神城断層地震の影響もあり、この5年間で人口が231人減っています。
- 高齢化率が高いのは、中谷・土谷、北小谷。南小谷を見ても、50%を超えている地域(赤色)が4つあります。
- 南小谷地域は65歳以下の人口が多く、働ける世代、地域の担い手候補者が多くいます。
- 中谷地域には、赤・黄・緑がすべて含まれており、地域の中で人口の増減に差がでています。

大字	集落名	H24.4人口	H29.4人口	増減	高齢化率(H29.4時)
千国	榑池南	360	372	↑12	24.5
	榑池北	246	240	↓-6	29.6
	千国	146	136	↓-10	42.6
	五区	113	107	↓-6	27.1
	蕨平	139	129	↓-10	23.3
	峰・建屋・若栗	164	190	↑26	24.7
	土倉	107	96	↓-11	40.6
	川上	70	66	↓-4	36.4
	黒川	64	60	↓-4	43.3
	月岡	57	55	↓-2	30.9
中小谷	伊折	23	22	↓-1	54.5
	里見	69	68	↓-1	35.3
	南雨中	147	133	↓-14	36.8
	北雨中	100	87	↓-13	36.8
	虫尾	31	25	↓-6	48.0
	下里瀬	214	205	↓-9	31.7
	池の平	67	66	↓-1	39.4
	平間	33	30	↓-3	56.7
	日道	31	25	↓-6	44.0
	池原下	32	24	↓-8	37.5
中土(土谷)	池原	70	68	↓-2	52.9
	石坂	21	16	↓-5	62.5
	奉納	49	40	↓-9	47.5
	曾田	61	42	↓-19	52.4
	上手村	31	25	↓-6	56.0
	中通	25	22	↓-3	59.1
	太田	25	21	↓-4	33.3
	石原	40	37	↓-3	29.7
	白岩	25	26	↑1	30.8
	瑞穂長崎	73	65	↓-8	35.4
中土(中谷)	中谷東	23	23	→0	43.5
	黒倉	12	10	↓-2	20.0
	外沢	4	2	↓-2	0.0
	清水山	28	31	↑3	61.3
	中谷西	29	20	↓-9	70.0
	松本	8	5	↓-3	40.0
	神久	3	2	↓-1	100.0
	千沢	31	22	↓-9	72.7
	高地	22	16	↓-6	81.3
	真木	18	9	↓-9	55.6
北小谷(南部)	大草連	5	5	→0	100.0
	田中	4	5	↑1	60.0
	小谷温泉	8	8	→0	25.0
	来馬	45	41	↓-4	51.2
	下寺	58	49	↓-9	46.9
	島・塩坂	31	26	↓-5	50.0
	湯原	17	15	↓-2	46.7
	三ヶ村	18	11	↓-7	81.8
	深原	61	45	↓-16	64.4
	李平	47	36	↓-11	66.7
北小谷(北部)	大網	75	73	↓-2	56.2
	姫川温泉	28	26	↓-2	42.3
	戸土	2	1	↓-1	0.0
計		3,210	2,979	-231	37.7

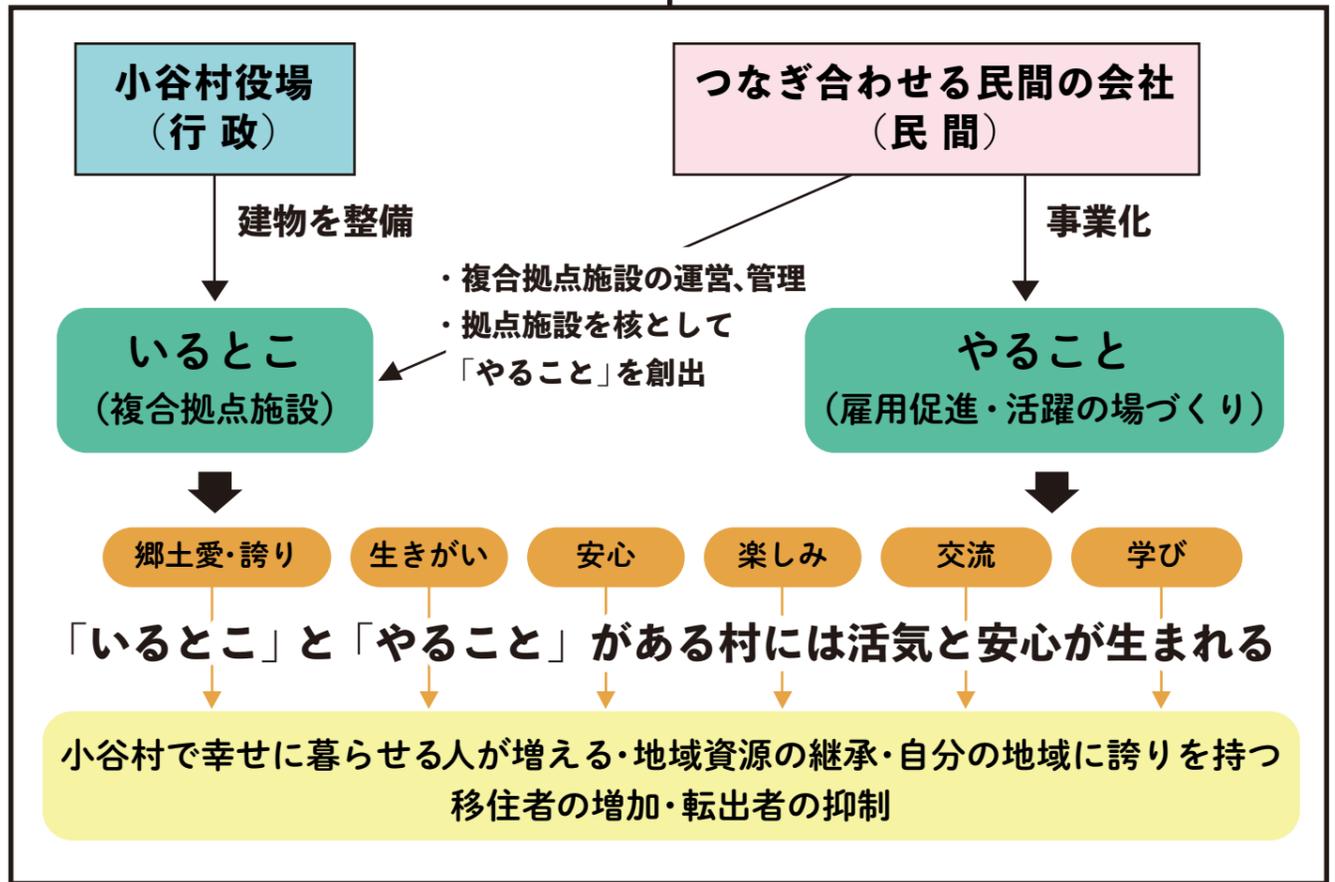


$$\text{集落の中の} \\ \text{高齢化率} = \frac{\text{65歳以上の人数}}{\text{集落全員}}$$

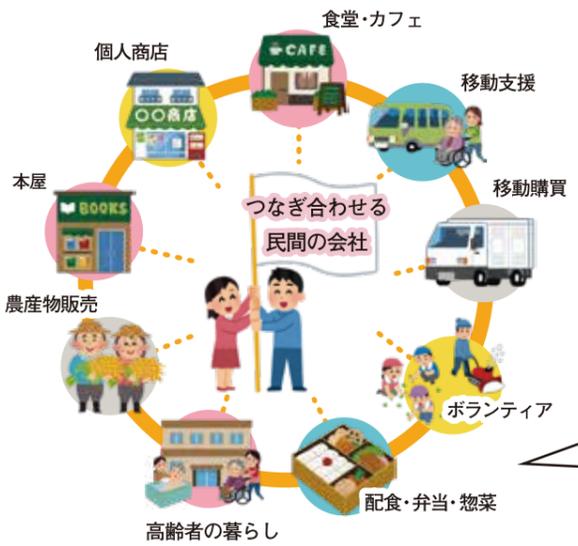
- 凡例
- +11人～
  - +1～10人
  - 0人
  - -1～10人
  - -11人～

# つなぎ合わせる民間の会社と「いること」「やること」の関係

## おたり54プロジェクト (官民協働)

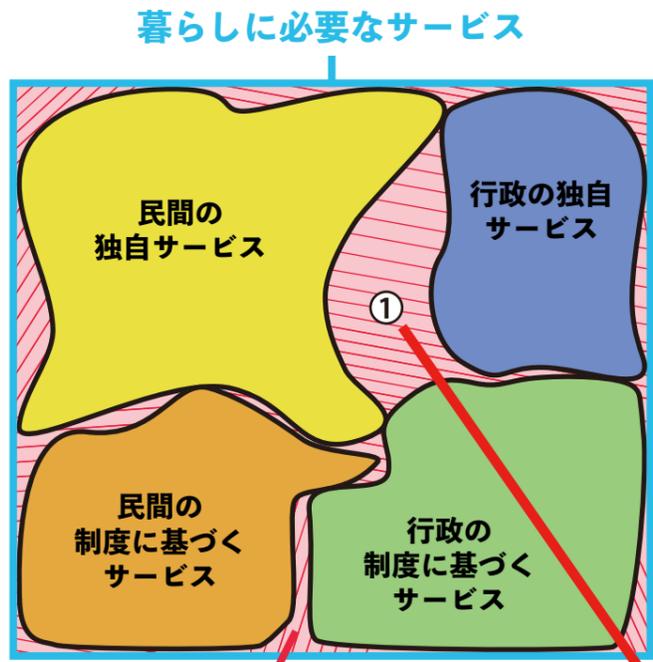


## 「54集落ごと、すべての世代の誰もが自分らしく暮らせる村づくり」

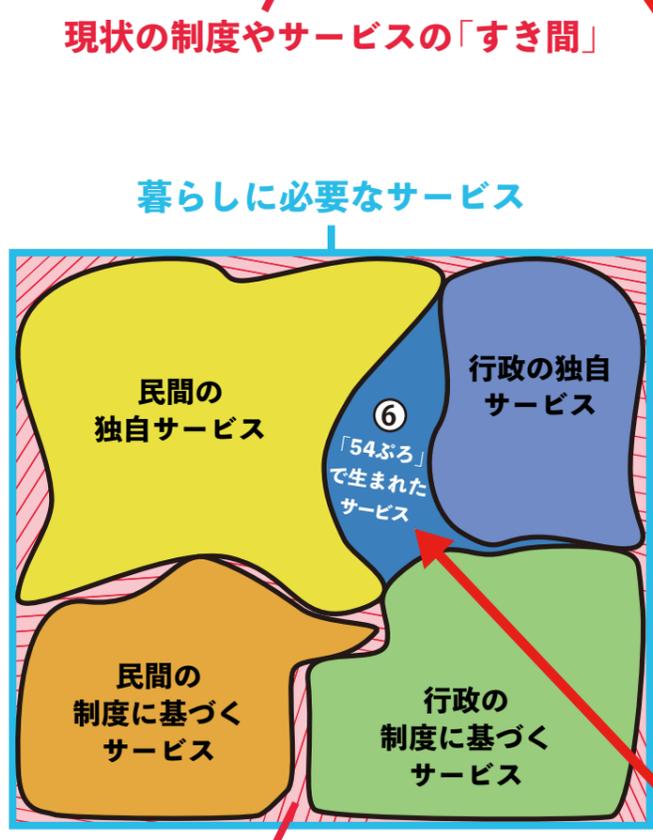


現在、おたり54プロジェクトを推進しているのは、特産推進室内の事務局ですが、「つなぎ合わせる民間の会社」が発足すれば54ふるを推進していくのは、この会社になります。行政と既存の民間事業者の橋渡しをする「つなぎ役」であり、双方と連携をとりつつ、中間的な立場で村内で活動する担い手同士を結びつけ調整する「旗振り役」となって、制度のすき間をひとつずつ埋めていきます。

## 「つなぎ合わせる民間の会社」の役割



**現在**  
現在、小谷村で暮らしていくために必要とされるサービスは、行政・民間共に「制度に基づいたサービス」と「独自のサービス」で構成されています。けれど、実際には、それだけでは埋まらない多種多様な「すき間」があちこちにできています。この、すき間の内容によっては「小谷村内で暮らしにくい」状態が生まれています。



- つなぎ合わせる民間の会社ができること…**
- ①住民が「すき間」を見つける。
  - ②すき間を埋める方法を探す。  
・自分で埋める  
・地域で埋める  
↓それでも解決できない場合に…
  - ③「つなぎ合わせる民間の会社」に相談
  - ④「つなぎ合わせる民間の会社」が調整役となって、サービス提供者と相談・協議
  - ⑤すき間を埋める新しいサービスを生み出す
- ③ つなぎ合わせる民間の会社 → ④ サービス提供者 (行政, 民間組織, 地域, 住民) → ⑤ 新しいサービス誕生!
- ⑥すき間がひとつ埋まる！ (54ふるによって生まれた、新しいサービス)

この①～⑥を繰り返しながら「おたり54プロジェクト」の目標を実現していくのが、行政と民間をつなぐ中間的な立場の「つなぎ合わせる民間の会社」の役割です。

## なぜ、中間的な立場の「つなぎ合わせる民間の会社」をつくるのか？

### ●小谷村での暮らしを豊かにする

「暮らしに必要な新しいサービス」を生み出すために、官民が協働で考える機会をつくり調整する「つなぎ役」が必要。

### ●利益を追求しない会社(非営利組織)であること

非営利組織は、組織活動存続のための収益をあげることができるが、特定の者への利益配分はできないため、村民へ還元することができる。

### ●機動性(スピード)があがる

民間の組織であるため、課題に対しての対応が早くなる。

### ●継続性をもつ

行政のように人事異動などの影響を受けずに、運営する人材を固定できる。

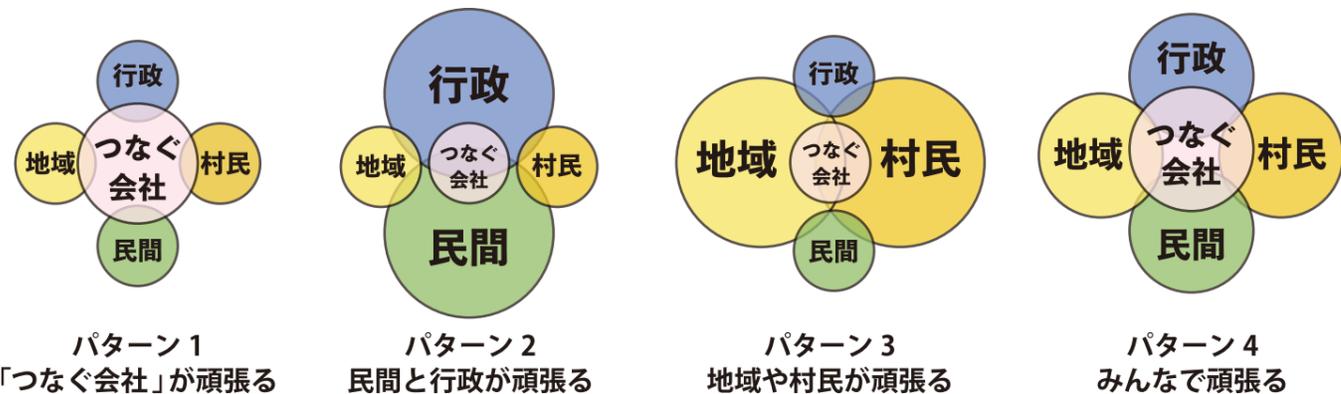
### ●独自事業を立ち上げられる

「全員に平等に」という意識ではなく、「できることをやる」を基本に独自事業を展開できる。

### ●生活を応援する事業者間の調整ができる

村内の多様な主体と連携して「いるところ」・「やること」をつくり、村内全域に活気と安心を生み出す(=村民の生活向上+転出抑制・転入者増)

## 「すき間」を埋めるにはどんな方法が考えられるのか？



それぞれが、いろいろな方法で、すき間を埋め合う

上記はあくまで一例です。誰が何をするのは「すき間」の内容によって変化します。まずは村民それぞれが「すき間」を見つけたら、その課題と解決策を考えてみてください。課題が解決されなければ「おたり54プロジェクト」と「つなぎ合わせる民間の会社」の目標は達成されず、村の暮らしの質も高まらないため、住民は「最後まで自分らしく暮らす」ことが、どんどん難しくなっていきます。

54ふるは「**村民全員参加のプロジェクト**」ということをどうか忘れないでください。すき間を見つけた時には「自分ごと」として、どうやったらこのすき間は埋まるのか？を54ふると一緒に考えていきましょう。

# 「いるところ」複合拠点施設

## 機能①「安心できる住まい」の検討状況

### ●目的

多世代の村民と村外者の「いるところ」を提供する複合拠点施設

### ●候補地

旧保育園跡地、ほか数カ所にて検討中

### 機能① 安心できる住まい

病気やケガ、冬期など自宅で暮らすことが不安な時に住民が安心して暮らせる場所。



### 機能② 交流促進

イベントや買い物、求人など立ち寄りたくなるものがあり、人のつながりと仕事のマッチングを促し、多世代・異分野・村内外者が訪れ、交流できる場所。



どちらも早期に進めていくものですが、今回は「機能① 安心できる住まい」の検討状況についてお知らせします。

## 「安心できる住まい」とは、一体どんなもの？

### 村民からの要望

- ・冬期、一人で大きな家に住んでいても管理もできず、生活を続けていくことが難しい。
- ・本人は大丈夫、と言っているが、一人暮らしのままにはしておけないという家族の声。
- ・自分のことは一人でできるが、誰かが近くにおいて見守っていてほしい。
- ・小谷村に暮らし続けたいが、入れる施設がないので村外へ出ていかなければならない。
- ・介護保険制度を使い施設に入居したいが、介護認定を受けられず入居できないので、制度にしばられない施設がほしい。
- ・最期の時まで、看取ってくれる場所がほしい。

## どのような住まいのあり方が望ましいのか？

要望とデータから検証

### 基礎データ検証

- 人口推計**
  - ・地区別人口と人口増減
- 要介護者データ**
  - ・集落ごとの高齢化率と後期高齢者数の把握
  - ・集落ごとの要介護者・要支援者の分布状況
- 社会資源データ**
  - ・高齢化率から見る各地区の存続状況
  - ・集落ごとの空き家状況(活用できるものがあるか調査)

## 基礎データから考えられること

### ●高齢化率が高い集落が多い

生活支援が必要となる可能性が高い。早急な支援体制の構築が必要。

65歳以下人口が少ない地域も、今後同様の状況になる可能性がある。

### ●65歳以下人口

いずれ生活支援を必要とする人たちではあるが、同時に「地域を支える担い手」としての可能性をもっている。

### ●要介護4～5(重度者)への対応

介護保険制度による施設入所が可能であるため、まずは今ある制度を利用し、身の安全・安心を重点的に確立する。新しいサービスを生み出すだけでなく、今あるものを組み合わせて支援する体制を考える。

### ●要支援1～2から要介護1・2・3(中程度者)への対応

在宅・施設・病院に関わる頻度が高く、既存の枠組みでは制度の狭間に陥りやすい。

季節的利用、一時宿泊、施設入所代替え、一時的支援増量時の対応等、柔軟な対応を必要とする。

以上をふまえて…

## 安心できる住まいのあり方とは…

### ●柔軟な「暮らし方」ができる

- ・生活(起きて、食べて、寝る)するだけでなく、料理をつくる、どこかにでかける、人と会って話すといった普段の「暮らし」を続けられる場所。
- ・「用意してあげる」のではなく、自分自身が「暮らしたい」「過ごしたい」と思える環境であること。そのためには培った時間や歴史、想い、人間関係を重視した環境であること。
- ・時間、費用、人材など「村の中にある資源」を最大限に活用する。

### ●柔軟な「暮らし方」を続けられる場所である

- ・安心要素である「見守り」「食事の支援」「地域(人)との交流」「看取り」ができる。
- ・制度にしばられず、誰もが使える場所であること。
- ・居住者だけでなく家族の安心もかなえられるように、相談できる体制があること。
- ・冬期や、病院から自宅へ戻る時などの不安定な時に頼れる場所であること。

### ●担い手(見守りをする人)が必ずそばにいる

- ・住まいの継続的な運営と支援を可能とするためには、「担い手の確保」が必須。
- ・地域ごとの要望は違うため、その地域に合ったサービス提供ができる適切な担い手が必要。



複合拠点施設の設置に向けて、平成30年度は大きく動き出します。住民の皆さんと意見を交わす機会をつくっていきますので、ぜひご参加ください！

おたり54プロジェクトお問い合わせ先

0261-82-2589  
(小谷村役場 特産推進室)